

平成20年度 施策マネジメントシート【19年度評価】

作成:20年5月

施策コード 26	施策名 スポーツの振興	政策名 地育力によるこころ豊かな人づくり
施策区分	主管部等名 教育委員会	施策主管課 生涯学習・スポーツ課
重点施策	施策関係課 公民館	課長名 宇井延行
		内線 5570

1. 施策の目的と成果指標

二段表記の下段数値は旧2村分

施策の対象	対象指標	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	23年度見込
市民	住民人口	人	106,835 2,963	108,624	107,844	107,259	107,000
施策の意図	成果指標	単位	16年度	17年度	18年度	19年度	23年度目標
いつでも誰でもどこでも気軽にスポーツに親しむ競技力が向上する	ウォーキングやスポーツを行っている市民(成人)の割合	%	29.6	35.3	-	35.7	45
	全国大会レベルの大会に出場した市民の数(国民体育大会、中体連、高校総体)	人	42	28	22	53	40
	全国大会レベルの大会に出場した団体の数	団体	12	2		4	10
成果指標設定の考え方	:スポーツに親しむ機会の少ない成人について、主な成果指標として設定した。 :全国レベルの競技力が向上したかを示す指標として、成人は国体への出場数、小中高校生は中体連、高校総体への出場数とした。						
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査:問8 あなたはウォーキングやスポーツをどの程度行っていますか = 毎日行っている 8.3% 週に2回以上行っている 14.5% 週に1回程度行っている 12.5% データの把握できる、国民体育大会(2回)へ出場した市民の数と、中体連・高校総体へ出場した中高校生の選手の数とする。 データの把握できる、国民体育大会(2回)へ出場した団体の数と、中体連・高校総体へ出場した中高校生の団体の数とする。						
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	<成果指標> 今後の推移としては、意識調査では高齢者ほどウォーキングやスポーツを行っている市民の割合が高いため、高齢化が進むことで割合は増加すると予測する。国では「週に1回以上のスポーツ実施率50%」を掲げていることから、現状を助成する中、国の目標に向けて1割増の90%を目標とする。 <成果指標> 今後の推移としては、年代や種目により毎年異なるため予測することはできない難しいが、総合的に現状維持と捉えた。2年間の実績値から高い数値へ近づけることを目標とした。 <前提条件> 上記の目標を達成するための前提条件としては、スポーツ施設やウォーキングコースなどの充実、スポーツに親しむ機会づくり、さらには指導者の育成と充実が挙げられる。						

2. 施策を担う主体

主体	施策の成果向上に向けた主体別の役割分担	ムトス指標と把握方法(把握方法と単位をカッコ書きする)	19年度実績	23年度目標
行政 市(国・県)	スポーツ活動の普及及び支援 スポーツ環境の整備(施設と用具) スポーツ指導者の養成と派遣	スポーツ事業、講習会の開催回数及び参加者数 施設の利用者数 スポーツ事業の派遣回数、指導者養成のための講習会等の回数	75回 4,925人 1,014,844人 155回 4回	55回 5,300人 533,000人 130人 5回
市民等	個人、各種団体 ・ウォーキングやスポーツを行う。競技力向上を目指す。 ・身近にスポーツを見て楽しむ。 地域的団体(公民館活動含む) ・いつでも誰でもどこでも気軽にスポーツができる「場」づくり。 ・スポーツを通じて交流を図る。 市民団体(体協) ・スポーツの機会の提供(大会、講習会、講演会) ・競技力向上への指導(指導者の育成と派遣)	・スポーツサークルの数及び所属している人数 ・週1回以上のスポーツを実施している成人の割合(国の基準50%) ・体育協会加盟団体主催の競技大会、講習会に参加した人数 ・地域のスポーツ活動の開催回数及び参加者数 ・スポーツ事業、講習会の開催回数及び参加者数 ・指導者の派遣回数、指導者数	現段階は、行政の役割のみ数値設定	

3. 施策の成果達成度の分析

(1) 施策の成果達成度とその考察	
平成19年度の実績評価	<input checked="" type="checkbox"/> 18年度と比べて成果が向上した <input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 18年度と比べて成果は低下した
平成23年度の目標達成見込み(H19実績からのH23目標達成見込み評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状(20年度)の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい
成果指標の達成度の考察	市・体育協会・体育指導委員等の連携により、スポーツ振興の継続的な取り組みを行っており、23年度目標は達成できる見込みである。 根拠(理由) 市民意識調査結果は微増であり、全国大会レベルの大会出場の数、団体数とも増加していることから、成果は向上していると言える。 根拠(理由) 市、体育協会、体育指導委員等が連携し継続した活動を行っているため、目標達成は可能と判断される。

達成度の考察	
(2) 施策の成果達成度に対する平成19年度事務事業の総括	
施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	社会体育学校開放事業 体育指導委員活動事業 やまびこマーチ開催事業
施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
新規事業	事務事業一覧表を参照のこと。事業名欄に【新規】と記載がある事務事業が該当
事務事業全体の振り返り(総括)	市民一人ひとりが健康で潤いのある生活を営むため、『いつでも、どこでも、いつまでも』スポーツやレクリエーションに親しむ人を増やす目的に向かって、市・体育協会・体育指導員等の連携を図りながら取り組んできた。
(3) 主体別の役割分担の発揮状況 (19年度の振り返り)	
市、地域団体、市民団体は、概ね役割を果たしていると言える。 市民は、体力、年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツ活動をしているといえる。	

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?	体育施設の老朽化
この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	体育館建設要望、施設改修要望がなされている。

#### 5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<p>気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツ活動の機会の提供を積極的に進め、市民の健康志向をさらに高める。          体育施設の老朽化に伴う環境の整備が必要である。          競技力向上のために、各種団体と行政が連携した指導者の育成が必要である。</p>
---

#### 6. 施策の事業(一般会計及び一部特別会計を含む)

	19年度決算見込み	20年度決算	21年度決算	22年度決算	23年度決算
施策事業費(人件費を除く)(千円)	206,772				
関連する事務事業の数(事業)	16				

#### 7. 21年度の施策展開の方向(施策の成果目標達成に向けて21年度から何に取り組んでいくか等)

<p>多くの人々がスポーツに親しめるよう、スポーツ活動の機会の提供を積極的に進め参加者の増加をはかる。          各種団体と連携をしながら講習会の開催等を通して指導者の育成を図る。          体育施設の改修について、年次整備計画を策定して順次進めていく。</p>
---

#### 8. 指摘事項

政策評価会議	
--------	--